

甲府市の事務事業における温室効果ガス排出状況について

甲府市が行う事務・事業に伴って発生する二酸化炭素などの排出量を抑制するため、「甲府市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しました。本計画では、本市の温室効果ガス排出量の状況や、省エネルギーへの取り組み等を踏まえ、「公共施設」と「公用車」について原単位目標を2016（H28）年度から設定し、平成25年度を基準年度として2030（R12）年度までに毎年1%ずつ削減（基準年度比15%削減）することを目指しています。

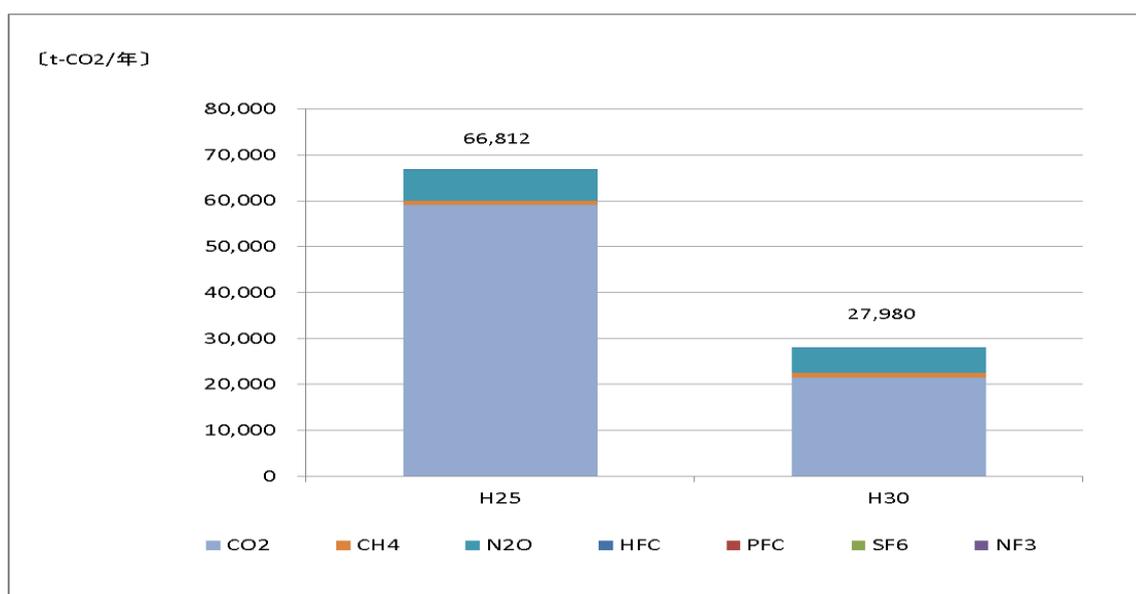
これに基づき、2018（H30）年度に関する本市事務事業における温室効果ガスの排出状況と、同年度の「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況を公表します。

■温室効果ガスの排出状況

（1）総排出量及びガス種類別排出量（単位：t-CO₂/年）

ガス種類	2013(平成25)年度		2018(平成30)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
二酸化炭素(CO ₂)	59,081	88.4%	21,561	77.1%
メタン(CH ₄)	923	1.4%	903	3.2%
一酸化二窒素(N ₂ O)	6,803	10.2%	5,513	19.7%
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	4	0.006%	4	0.012%
パーフルオロカーボン(PFC)	0	0.0%	0	0.0%
六フッ化硫黄(SF ₆)	0	0.0%	0	0.0%
三フッ化窒素(NF ₃)	0	0.0%	0	0.0%
合計	66,812	—	27,980	—
対基準年度比	—	—	△58.1%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



○総排出量は、甲府市が行っている全ての事務事業（本庁舎、上下水道局、環境センター、小中学校、病院、公民館、公用車など）に伴い排出されるCO₂等の温室効果ガスの総量をいいます。ただし、一部事務組合や広域事務組合を除きます。平成30年度は基準年度に比べ58.1%減少しています。

(2) 活動種類別排出量 (単位: t-CO₂/年)

活動種類	2013(平成 25)年度		2018(平成 30)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
燃料の燃焼	3,378	5.1%	3,131	11.2%
他人から供給された電気の使用	21,990	32.9%	18,429	65.9%
一般廃棄物の焼却	35,251	52.8%	0	0.0%
産業廃棄物の焼却	3,408	5.1%	3,668	13.1%
ディーゼル機関における燃料の使用	3	0.004%	2	0.006%
ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78	0.117%	74	0.265%
自動車の走行	10	0.015%	10	0.035%
下水又はし尿の処理	2,691	4.0%	2,644	9.5%
麻酔剤(笑気ガス)の使用	0	0.000%	18	0.064%
自動車数(エアコンディショナー)	4	0.006%	4	0.013%
合計	66,812	—	27,980	—

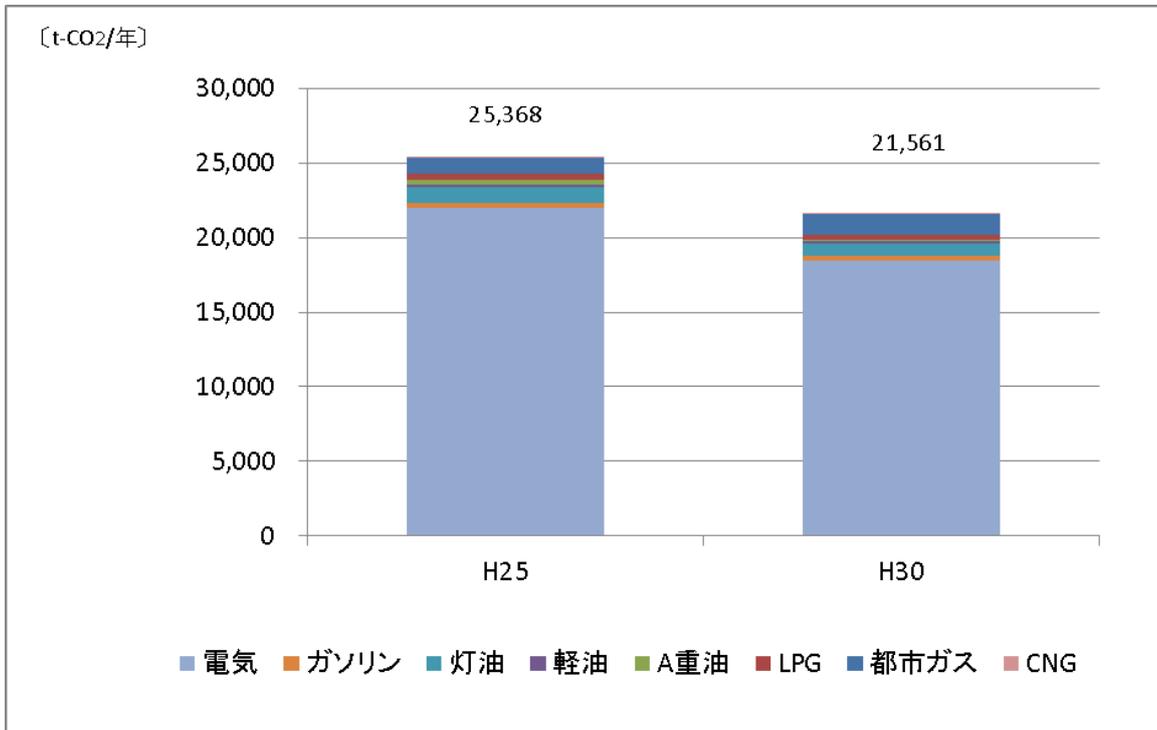
※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

○活動種類別排出量では、主に「産業廃棄物の焼却」が平成 30 年度は基準年度に比べ増加しています。また、「他人から供給された電気の使用」は基準年度に比べ減少し、平成 28 年度末の甲府市環境センター焼却工場の閉鎖に伴い、「一般廃棄物の焼却」による排出量はありません。

(3) エネルギー起源二酸化炭素排出量 (単位: t-CO₂/年)

エネルギー種類	2013(平成 25)年度		2018(平成 30)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
電気	21,990	86.7%	18,429	85.5%
ガソリン	328	1.3%	339	1.6%
灯油	1,068	4.2%	853	4.0%
軽油	152	0.6%	121	0.6%
A 重油	289	1.1%	97	0.5%
LPG	455	1.8%	341	1.6%
都市ガス	1,074	4.2%	1,377	6.4%
CNG	12	0.05%	3	0.01%
合計(エネルギー起源 CO ₂ 排出量)	25,368	—	21,561	—
(再掲)温室効果ガス排出量	66,812	—	27,980	—
エネルギー起源 CO ₂ の排出比率	38.0%	—	77.1%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



○エネルギー起源二酸化炭素排出量は、(2) 活動種類別排出量のうち「燃料の燃焼」及び「他人から供給された電気の使用」の合計値にあたります。

○エネルギー起源二酸化炭素排出量の全体に占める割合は、全体の温室効果ガスの排出量（一般廃棄物の燃焼含め）が減少した事により増加していますが、エネルギー起源二酸化炭素排出量は基準年度に比べ減少しており、本市の省エネルギー対策等の効果が現われていると考えられます。今後も引き続き効果拡大を図るため、様々な取組みの強化を図っていきます。

■「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況

【計画の目的と削減目標】

「公共施設」の削減目標は、2020（R2）年度の本市温室効果ガス排出量原単位（公共施設の延床面積1㎡あたり）を2013（H25）年度比7%以上削減、「公用車」の削減目標は、公共施設と同様に「2020（R2）年度の温室効果ガス排出量原単位（公用車1台あたり）を2013（H25）年度比7%以上削減」としています。

また、平成30年度の温室効果ガス排出量原単位（公共施設/公用車）をつぎのとおり公表します。

（1）温室効果ガス排出量（公共施設/公用車）（単位：t-CO2/年）

区分	活動種類	2013(平成25)年度		2018(平成30)年度		対基準年度差
		個別	分類別合計	個別	分類別合計	分類別
公共施設	他人から供給された電気の使用	21,990	24,992	18,429	21,234	△3,758
	ディーゼル機関における燃料の使用	3		2		
	ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78		74		
	麻酔剤(笑気ガス)の使用	0		18		
公用車	燃料の燃焼	公用車以外	470	2,710	434	△36
		公用車		457		
	自動車の走行	10	10			
	自動車数(エアコンディショナー)	4	4			

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

※活動種類別排出量の一部を再掲しています。

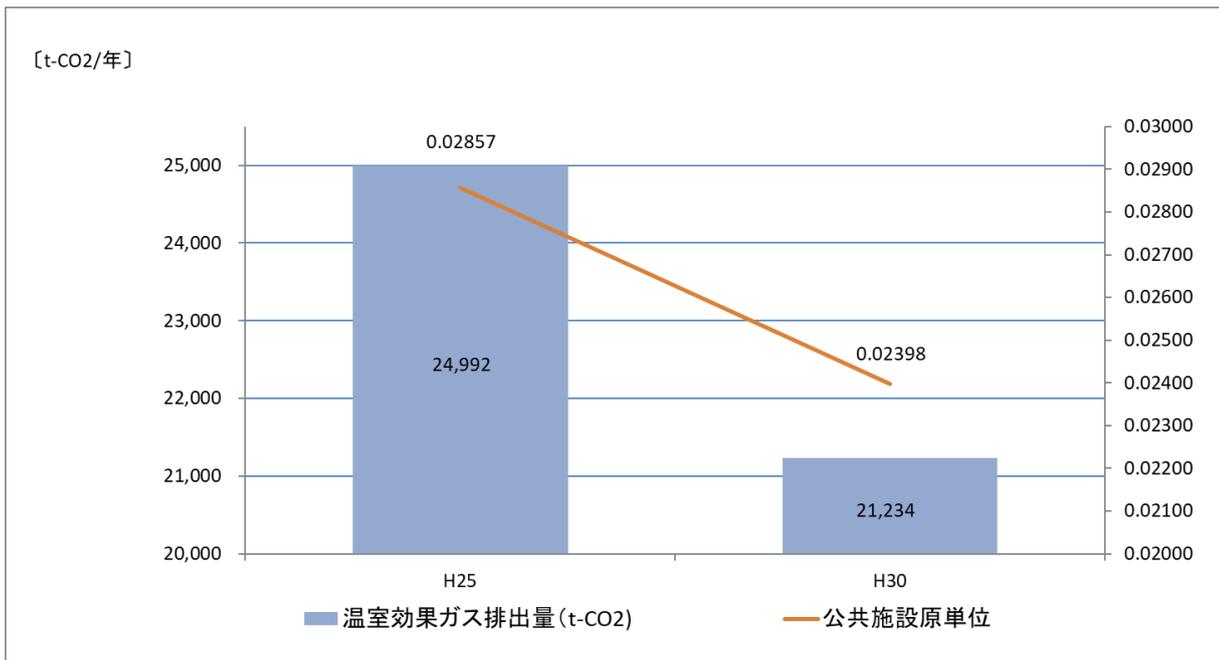
○公共施設・公用車の温室効果ガス排出量は、平成30年度は基準年度に比べ減少しています。

（2）温室効果ガス排出量削減原単位（単位：t-CO2/年）

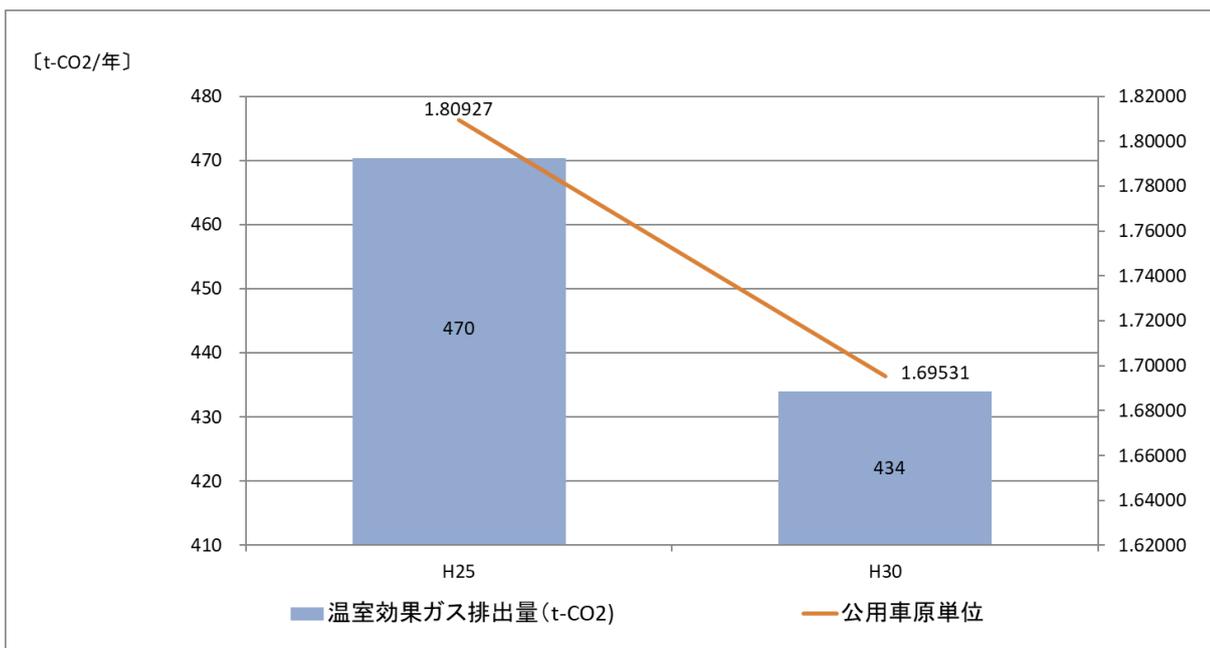
公共施設	2013(平成25)年度	2018(平成30)年度
	基準年度	
温室効果ガス排出量	24,992	21,234
延床面積(㎡)	874,762	885,378
原単位(t-CO2/㎡)	0.02857	0.02398
基準年度比		△16.1%
公用車	2013(H25)年度	2018(H30)年度
	基準年度	
温室効果ガス排出量	470	434
車両台数(台)	260	256
原単位(t-CO2/台)	1.80927	1.69531
基準年度比		△6.3%

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

【公共施設】



【公用車】



○原単位とは、「温室効果ガス排出量」を「公共施設の延床面積」や「公用車の台数」で割ったものです。

○公共施設・公用車とも、平成30年度は基準年度に比べ減少しています。